

栄ちゃんの

熱血

演歌塾

『男一途』 編



男一途
大川栄策

男の行き様を古風な生き方で貫き通したいと言う今回の作品は、反骨精神溢れる凛とした男の心意気を歌う歌です。その時のトレンドや風潮に流されずしっかりと自分の信念を大事に生きていこうよと言うこの歌の主張は一般的な意味での”流行歌”とは一線を画する歌かも知れません。しかし、世の中に立ち向かっていく男の心構えは何時の時代も同じだよ。男としての意地と自立心を腹の奥にしっかりと据えて生きて行こうよ。そんな意味では厳しい時代に生きる男の応援歌と言う側面もあるかも知れません。今の世相は不況感や就職難、それに依る厭世的な気分が蔓延した昭和一杯の時代に良く似ていると言われます。

その頃は世界大恐慌の影響も、不幸な戦争に向かう時代の不安感もあったでしょう。又、歌謡曲の黎明期でもあるその時代の流行歌の中で任侠演歌の代表作“人生劇場”では～義理と人情のこの世界～とあります。そして戦後40年代のその

カラーの代表作は”唐獅子牡丹”。～義理と人情では義理が重たい～と歌い上げます。

高度成長期で活気があり世の中荒んでいました。その違いは時代の価値観かも知れませんが少し変わってきました。今回の歌は昭和60年代の作。

ビジネスライクに偏重する世相にある意味グローバリズムを予見する時代感覚かも知れませんが、”義理と人情じゃ世の中生きていけないよ”がしかし、世の中の風潮に

流されず、熱い情熱と正義感を持って自分の道を切り開いていこうという

男性が本来持つ勇気を鼓舞する歌と捉えて歌って見るといいかも知れません。

さて詩の形式ですが、見事なまでの七五調の五行の定型詩です。まず詩を朗読して

みましょう。快活なリズムと切れのある言葉の響きが実感されると思います。

その心地よさを、メロディを刻んで行く時の言葉のキレに活かしていきましょう。

そんな心構えで取り組んで行きましょう。

～ひとつ頬つべた張られたら、俺は二つにして返す～ 女歌や艶歌（つや歌）とは対照的な言葉や声の伝え方を

します。前段で書きましたが七五調の言葉数は3つ、4つ、5つの単語で構成されています。

この三つの言葉のブロック事に感情も情景も音の強弱も使い分けて行く様にしましょう。

特にこの歌はギター一本だけのソロ演奏で始まり、古賀メロを彷彿させるようなスタイルで進行します。

この最初の2行は特にリズムセクションが薄い編曲なので

～ひとつ・頬つべた・張られたら・俺は二つにして返す・～

ここは言葉のキレを明確に表してスイング感も同時に出しましょう。只、自分に語りかける様に。

あまりこのパートで、勇ましく力んで歌うとこの歌のテイストが違う方向に向かいます。

～意地を～このサビの導入部は大きく腹の底から声を出す

～捨てれば～のばは突き放す感じで！～意地を否定する訳ですから、当然そのままのトーンでは面白くありません。

少し泣きを入れる感じで！勿論、全体をそのまま声の響きや伸びを大事に歌う唱法もあります。歌謡曲の唱法ですね。

しかし今回の歌は男のこころ意気を歌った歌です。その人物像とその意志力を演劇的に表現する立場で

お伝えしています。

～命が枯れる～命は太い胸声で！～枯れるは頭声で！頭蓋内に響かせます。～るはバイブレーションを掛ける。

うううう・・・と言う感じです。一言一句の表現が微妙に変化し展開して行きます。

～時の流れは～時は腹から出す声を上体で押し潰す感じで！その為には先にお腹に沢山空気を入れなければ

なりません。

～流れはその反動で腹に残った空気と共に声を上に放り投げる感じです。頭蓋内だけの響きで！

先程の～枯れると一味の違いを付ける意味で～変ろうとまではファルセット（裏声）気味に！そして声を揺らします。

只～とは明確にこの言葉を突きます。世の流れと自分の意思は対極に或る訳です。

そこにこの男性の強い意志が表現できますし、次の～俺は、俺はの表現の伏線になります。

同じ言葉が三回続きます。それぞれに工夫しましょう。初回の～俺はは、この歌の最低音部の音です。

しっかりプレス（呼吸）を溜めて柔らかく！お腹の底から出す感じでたっぷり！

2回目はちょっと声を浮かす感じでしみじみとの感情を持って！3回目が一番強い表現で！

～男で～ですが音程がオクターブ飛びます。しゃくり上げる感じで音程に気をつけて！～こで～はその小節一杯声を伸ばし強く声を揺らします。気持的には1回目の～俺は自分の心に！2回目は目の前にいる一人の人の目を見て

その人に伝える感じで！3回目は目の前の大きな空間を意識して全ての人に訴える気持で！

～生きていく～はこの歌の聞かせどころで歌いどころです。照れずに！歌舞伎役者が大見得を切る

感じで！技術的には～い・き・で・ゆ・く～一つ一つの言葉をキッチリと立てて大きく歌います。

皆さんからの質問にゆ・くの間のゆりはどうやるの？と言う問合せを良く頂きます。

厳密に言いますと喰りと揺すりの組み合わせです。まず喰りは一言でいえば胸郭部で響かせます。

丁度鎖骨辺りに声をぶつける感覚です。そしてこの部分の揺すりはバイブレーションを掛ける技術を

身体全体で行う感じです。上半身の体重を腰に乗つける感じです。乗せた体重の重みを前後に揺らします。

この手法を同時に行います。そして全体的に言えば大きな歌のうねり（流れ）を大事に！

今回は日本の伝統的な歌唱法をベースに歌っていますので、ややもすれば声帯の負担が非常に大きい唱法です。

声のコンデションを整えながらレッスンしましょう。その一番の留意点は歌のドラマのリアリティを重視するあまり、

声を押さえついたり、必要以上に強い声を出そうと、し過ぎない無い事です。いつも自分の響きを保ちながら歌い

練習する事をお勧めします。又、いざ舞台等で歌う時には、大向こうに訴え掛けます。自分の心の内だけで解決して

小さな歌にならない様に！ポイントです。

一つ頬つべた張られたら
俺は二つにして返す
意地を捨てれば命が枯れる
時の流れは俺は男で生きて行く
俺は俺は俺は

作詩 松井由利夫
作曲 弦哲也
編曲 斎藤恒夫